

平成23年度 災害時要援護者支援制度開始

避難支援者がいない、個別避難計画も作成していないという状況。

→ 町会長や民生委員から名簿を受けとるのみの制度と批判が多かった。

平成28年度 避難行動要支援者支援制度への移行準備

「対象要件の見直し」「個別避難計画の作成」「避難支援者の選任（2名）」

を決定 → 平成29年度 新制度開始

その後・・・

制度内容を見直しを図るなかで市議会との質疑・勉強会を通じて、市上層部も本制度
に対する関心・理解が深まる。

市長からの『動ける仕組み』をつくるという指示にもマッチ → モデル事業に応募

個別避難計画を見直したことで・・・

避難行動要支援者やその家族 → 災害時を意識することができた。

福祉専門職 → 日頃の支援と災害時の支援がつながることを認識できた。

→ 協働して得た意見を基に、市全域に広がる仕組みづくりを進めていく。

○福祉専門職の参画（様式見直し・計画作成）

障害者自立支援協議会にて様式の見直しについて協議し、福祉専門職の参画の必要性を共有した。

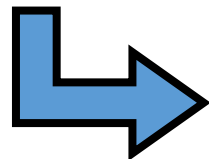
福祉専門職で構成したワーキングチームを発足し、様々な意見を反映した『マイタイムライン』を加える個別避難計画に見直しを図った。

＜ワーキングチーム構成員＞

- ・ケアマネジャー
- ・相談支援専門員
- ・ヘルパー
- ・障害者基幹相談支援センター
- ・社会福祉協議会
- ・訪問看護職員
- ・市職員

実効性のある個別避難計画の作成にも、

福祉専門職の参画が必要！



相談支援専門員連絡会やケアマネジャー部会で、個別避難計画作成の必要性を説明した。

＜その他モデル事業で取り組んだこと＞

- ・個別避難計画に基づいた避難訓練の実施
- ・支援者向けガイドブックの作成
- ・避難行動要支援者の実態把握

個別避難支援計画

作成日： _____

さんのタイムライン

警戒レベル とるべき行動	1 （早期避難準備）	2 （大規模・洪水・高潮・高潮・高潮）	3 （避難指示発令）	4 （避難指示）	5 （緊急避難）
避難への準備を整える	避難への準備を整える	自らのタイムライン（避難行動）を確認	危険な場所から避難	危険な場所から避難	危険な場所から避難
時間の目安	3日前	2日前	1日前	半日前	7時間前
自分の（対象者）の行動	☐ 避難行動の確認 ☐ 避難するところ・避難経路の確認 ☐ 持ち出し品の確認 ☐ その他	☐ 避難行動の確認 ☐ 避難するところ・避難経路の確認 ☐ 持ち出し品の確認 ☐ その他	☐ 避難行動の確認 ☐ 避難するところ・避難経路の確認 ☐ 持ち出し品の確認 ☐ その他	☐ 避難行動の確認 ☐ 避難するところ・避難経路の確認 ☐ 持ち出し品の確認 ☐ その他	☐ 避難行動の確認 ☐ 避難するところ・避難経路の確認 ☐ 持ち出し品の確認 ☐ その他
避難支援者の行動	☐ 避難行動の確認 ☐ 避難するところ・避難経路の確認 ☐ 持ち出し品の確認 ☐ その他	☐ 避難行動の確認 ☐ 避難するところ・避難経路の確認 ☐ 持ち出し品の確認 ☐ その他	☐ 避難行動の確認 ☐ 避難するところ・避難経路の確認 ☐ 持ち出し品の確認 ☐ その他	☐ 避難行動の確認 ☐ 避難するところ・避難経路の確認 ☐ 持ち出し品の確認 ☐ その他	☐ 避難行動の確認 ☐ 避難するところ・避難経路の確認 ☐ 持ち出し品の確認 ☐ その他
持ち出し品 （避難行動に必要なもの）	☐ 軍 ☐ 携帯手帳 ☐ 重要書類 ☐ その他	☐ 軍 ☐ 携帯手帳 ☐ 重要書類 ☐ その他	☐ 軍 ☐ 携帯手帳 ☐ 重要書類 ☐ その他	☐ 軍 ☐ 携帯手帳 ☐ 重要書類 ☐ その他	☐ 軍 ☐ 携帯手帳 ☐ 重要書類 ☐ その他
緊急連絡先	① 氏名： _____	② 氏名： _____	③ 氏名： _____	④ 氏名： _____	⑤ 氏名： _____

○地域とのつながり、防災意識の向上

【計画どおり進まなかったこと】

町内会単位の避難訓練の多くがコロナ禍で中止となり、個別避難計画の検証や防災意識を啓発する活動がすすまなかった。

個別避難計画の見直しを図ることができたケースが予定より少なく、個別避難計画作成のプロセスの課題の抽出がうまくすすまなかった。

【今後の対応方針】

できる範囲での避難訓練の実施（自宅内から外に出るまで 等）
規模は小さくてもなるべく多くの事例を積み重ねたい。

支援者向けガイドブックの活用

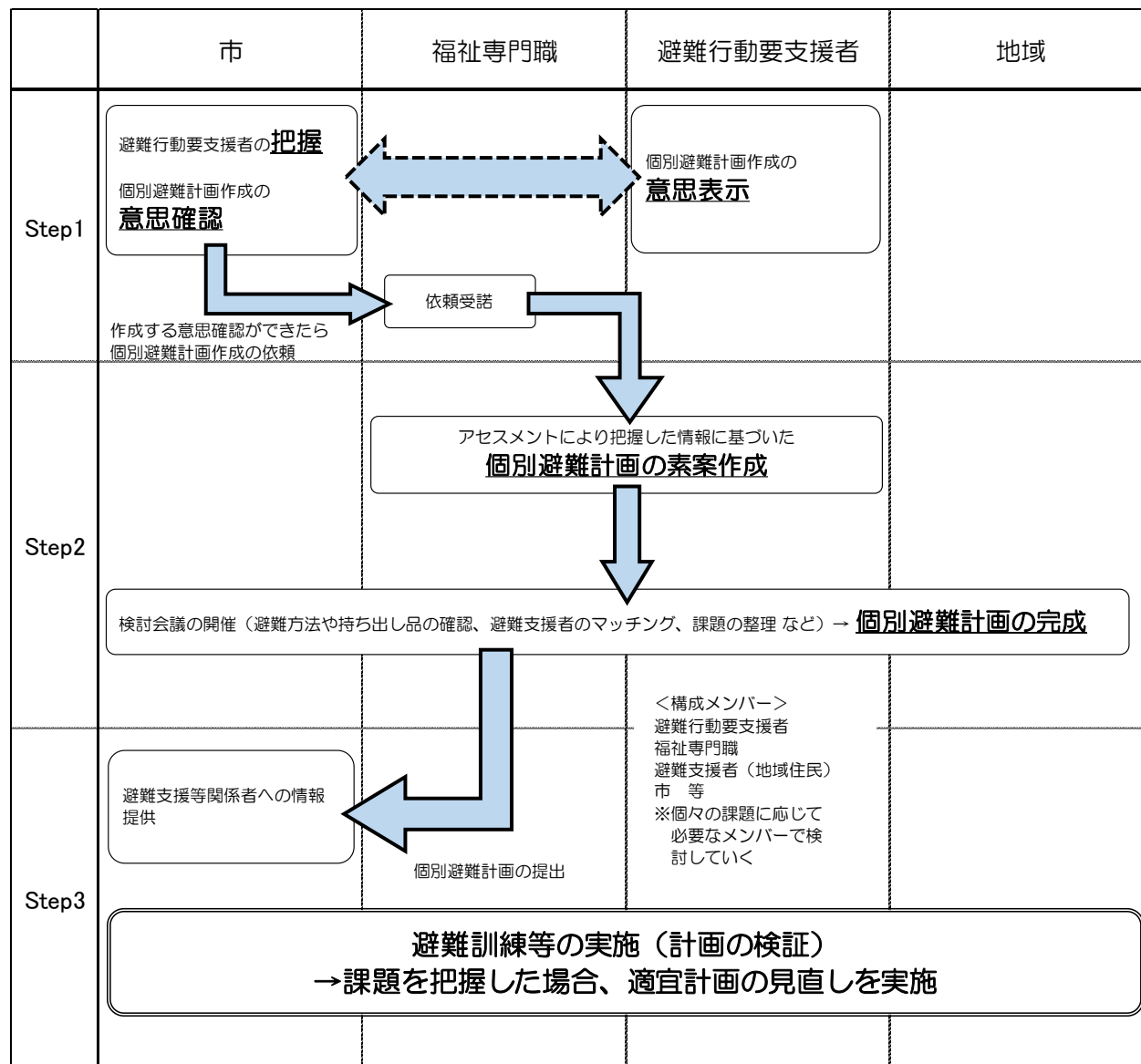
ワーキングチームの継続

→ 個別避難計画作成のプロセスについて課題を検討するとともに、
防災意識を高める地域づくりについても協議していく。



令和4年度は、重層的支援体制整備移行準備事業でも「防災」の視点を取り入れていく

○福祉専門職との協働による個別避難計画作成のプロセス



【次年度に向けた課題】

福祉専門職とつながっていない避難行動要支援者に対する個別避難計画の作成へのプロセス構築も必要。

地域との協働とともに、地域包括支援センターや障害者基幹相談支援センターなどの専門機関とも連携していくプロセスを構築していくことを協議していく。